〈司会〉

お待たせいたしました。定刻がまいりましたので、ただ今から、第 44 回大阪市環境審議会を開催させていただきます。

委員の皆様方におかれましては、大変お忙しい中ご参加を賜りありがとうございます。

議事に入りますまでの間、進行を務めさせていただきます、私、事務局の大阪市環境局環境施策部環境施策課の脇坂でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、本日の会議は、本会場にて 8 名の委員、また、Web 会議システムにより 9 名の委員、あわせて 17 名にご出席いただいております。

委員 20 名のうち半数以上の出席を得ておりますので、本審議会規則第 7 条第 2 項の規定により、本会が成立しておりますことをご報告申しあげます。

ここで傍聴者の皆様にお願いをいたします。あらかじめ事務局からお配りしております傍聴要領に従い、お静かに傍聴いただきますようご協力のほどよろしくお願いいたします。なお、本日は取材等を行う報道機関はございませんので、ご報告させていただきます。

それでは、ご出席いただいております委員の皆様をご紹介します。

まず、本会場にご出席の方をご紹介します。

下田会長でございます。

岩崎委員でございます。

貫上委員でございます。

永田委員でございます。

野上委員でございます。

大阪市会環境対策特別委員長の永田委員、大阪市会建設港湾委員長の野上委員におかれましては、今回の審議会から新たに本審議会委員にご就任いただいております。

春名委員でございます。

日裏委員でございます。

雪本委員でございます。

次に、Web でご出席の方をご紹介します。

今西会長代行でございます。

高村委員でございます。

田中委員でございます。

辻岡委員でございます。

藤田委員でございます。

細井委員でございます。

一般社団法人 大阪府医師会の細井委員におかれましては、今回の審議会から新たに本審議会委員にご就任いただいております。

松井委員でございます。

松本委員でございます。

吉田委員でございます。続きまして、本市からの出席者を紹介いたします。

環境局長の堀井でございます。

環境局総務部長の川島でございます。

環境局環境施策部長の河合でございます。

なお、本審議会幹事である本市関係 8 局長及び大阪府環境農林水産部長につきましては、Web にて出席いたしております。

それでは、開会にあたりまして、堀井環境局長からご挨拶申し上げます。

〈堀井環境局長〉

環境局長の堀井でございます。大阪市環境審議会委員の皆様には、ご多用の中、ご出席賜りまして、誠にありがとうございます。

本審議会は、本年4月に開催して以来でございますが、この間、新任委員として3名の方をお迎えしております。ご就任いただきましたこと、改めてお礼申し上げます。また、引き続きご就任いただいている委員の皆さま方におかれても、お力添えを引き続き賜りますようお願い申し上げます。

さて、4月の審議会では、2030年までを計画期間とする「大阪市環境基本計画」の中間見直しにつきまして、諮問させていただきました。

地球環境の悪化がますます深刻化する中、カーボンニュートラルの実現やネイチャーポジティブに係る国際的合意、プラスチックに係る条約化に向けた議論など、持続可能な社会の実現に向けた動きが加速しています。

我が国においても、本年5月に「第六次環境基本計画」が策定され、また、来年2025年には、夢洲において、SDGs達成への貢献をめざす大阪・関西万博が開催されます。

SDGs達成の目標年である2030年まで、あと数年、本市環境基本計画についても今年度内に改定し、取組みを一層推進してまいりたいと考えております。

本日の審議会におきましては、現行計画策定以降の最近の新たな動向等を踏まえ、また、4月の審議会において委員に皆さま方からいただいたご意見を反映した、計画改定案についてご説明し、ご審議を賜りたいと考えております。

委員の皆様方には、お時間のない中、本審議会にご参加いただき大変恐縮ではございますが、忌憚のないご意見を頂きますようお願いをしまして、開催にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。

どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

〈司会〉

それでは、会議を始めるにあたり、資料の確認をさせていただきます。本日の次第、配席図、委員名簿の他、議題ごとの資料が2点ございます。

なお、各資料は説明に合わせて、Webでご参加の方には画面共有いたしますとともに、その画面は会場のスクリーンへの投影も行いますので、ご覧ください。

また、Web でご参加の皆様におかれましては、ご発言いただくとき以外はマイクをオフにさせていただきますようお願いいたします。ご発言いただく際には、マイクをオンにいただき、冒頭にお名前をお願いいたします。

それでは、これ以降の議事につきましては、下田会長をお願いしたいと存じます。

下田会長、どうぞよろしくをお願いいたします。

〈下田会長〉

会長の下田です。

それでは議事に入らせていただきます。

まず、議題（１）の「『大阪市環境基本計画』の中間見直しについて」につきまして、事務局から説明をお願いします。

〈事務局〉

おはようございます。企画課長の川戸です。

それでは議題１につきまして、ご説明させていただきます。着座にて失礼いたします。

資料は１－１と１－２でございます。

資料１－１は表紙下に目次がございますが、中間見直し、改善に向けた概要などを記載しております。１－２は実際の改善案でございます。

まず資料１－１の１６ページをご覧ください。まずは、スケジュールのご説明をさせていただきます。

中段濃い青の欄ですけれども、先ほど局長のご挨拶の中でもありましたように、４月の審議会で、中間見直しについて諮問をさせていただきまして、各委員から様々ご意見をいただきましたので、本日はそれらを反映した改定案についてご審議いただきたいと思います。

本日いただくご意見につきましても、これを踏まえて修正しまして、また各委員にも、個別に説明させていただいた上で、年内に会長から答申をいただけたらと思っております。

その後、年明け１月より、パブリックコメントを実施しまして、寄せられた意見を踏まえて、今年度中に策定したいと考えております。

それでは戻りまして２ページをご覧ください。

こちらは前回審議会でご確認いただいた内容でございますが、２０１９年１２月に策定した現行計画の概要でございます。その特徴といたしまして、市の環境施策のマスタープランであることや、パートナーシップにより、経済、社会、環境の３側面の統合的向上を図り、SDGs達成に貢献すること、計画期間をSDGsと合わせて２０３０年度までとしていることなどが挙げられます。

３ページでございます。

中間見直しの方向性でございます。国内外で、２０３０年まであと数年、SDGs達成に向けた取組が加速しております。そうした中、大阪市の環境面におきましても、SDGs達成へ貢献していくため、中間見直しでは、SDGsをめざす現行計画の根幹部分をきちんと維持しながら、最近の新たな状況等を踏まえて改定するといったことを、前回の審議会でご確認いただきました。

次の４ページは、現行計画から維持、継承するものと、最近の新たな動向をまとめたもので

ございます。

そうしたところで、次の5ページから8ページにかけては、前回の審議会で各委員からいただいたご意見の概要と、それを受けて、改定案へ反映した項目を示してございます。

まず5ページでございます。

表の各欄の最初にアルファベットをつけて、太字で示しているのが、いただいたご意見でございまして、その下に「ちょぼ」をつけて示しているのが、一部ですが、改定（案）へ盛り込んだ内容でございます。括弧書きはその該当ページです。

例えばA欄をご覧ください。「万博の取組や大阪らしさなど、大阪市ならではの内容を盛り込めば、市民の方々に伝わりやすい」というご意見をいただきました。これに対しては1つ目、大阪市がSDGs未来都市・モデル事業に選定されたことや、それに伴いまして、プラスチックごみ削減に取り組んでいること、また、2つ目、来年開催される万博でもSDGs達成を掲げて、様々な取組みがされますので、その取組みなどを記載いたしました。

改定（案）での具体的な書きぶりは後ほど、資料1-2の説明の際にあわせてご確認いただくことといたしまして、まずはご意見の概要と、市の考え方をご説明したいと思います。

その下のBをご覧ください。「環境危機に対し、市の施策が抜本的に強化されるという方向性を示すことが重要である」というご意見をいただきました。G7 広島でも、「地球は気候変動、生物多様性の損失、汚染という3つの世界的危機に直面している」と述べられましたが、こうした環境の悪化に対しまして、本市ではこれまでの取組みの継続、強化に加え、脱炭素先行地域の取組みなど、新たな施策を展開して参ります。

次に6ページ、Cでございます。「環境の取組みでは、関係所属間の連携が重要である」とのご意見をいただきました。大変な重要なご指摘でございまして、これまでも必要に応じて関係部署と連携して取り組んできたところでございます。引き続き、横断的に連携して取組を進めて参ります。

次にその下、Dでございまして、「環境問題を含むサステナビリティな課題に対する企業の姿勢が評価される時代や社会になってきている。そうした課題に対する企業の取組姿勢が、ひいては企業の競争力などに影響する」というご意見をいただきました。これにつきましても、計画に新たに記載いたしまして、今後の取組の際に、肝に銘じて取り組んで参りたいと考えてございます。

次に7ページ、Eでございます。「環境負荷は昼間人口による影響が大きい」とのご意見をいただきました。こちらも計画に記載いたしまして、今後の施策実施などにおきまして、きちんと留意して参りたいと考えてございます。

その下のFとG、こちらは温室効果ガスの削減に係るものですが、「家庭部門の取組みや、再生可能エネルギーの取組みが重要である」というご意見をいただきました。デコ活など、いろんなチャンネルを使いまして、市民の意識変革、行動変容に取り組むとともに、太陽光発電の設置拡大などの取組を進めていきたいと考えております。

次に8ページでございます。生物多様性、自然環境に係るものでございます。

H「生物多様性の保全などに向けて、民間事業者と取組みを促進することが重要である」というご意見をいただきました。自然共生サイトや、市民、団体等との連携、情報共有を進めて参ります。

また I では、「地産地消や食育の取組みが重要である」とのご意見をいただきました。ここでは、A のご意見、大阪らしさというのも踏まえまして、なにわの伝統野菜などによる食育の取組みなどを進めて参ります。

以上いただきましたご意見は、いずれも重要なご指摘であり、改定（案）は、これらを踏まえて作成しております。

次の 9 ページから 15 ページは、そうした内容も含めまして、修正箇所の一覧でございます。またご参考いただければと思います。

それでは、資料 1-2 で具体的にご確認いただきながら、改定（案）についてご説明させていただきます。

資料 1-2 をご覧ください。赤字が現行計画からの修正点でございます。写真や図を更新したものは、赤で囲んでおります。赤を中心に説明させていただきます。

なお、本文中、関連する計画等からデータやグラフを引用しておりますが、近々改定されるものもありますので、そういうものは、関係部署と連携いたしまして、策定時には可能な限り最新のものに差し替えたいと考えております。

では、まず、「はじめに」のページ、それから 2 ページ、3 ページでございます。先ほど説明いたしました中間見直しの方向性について記載しております。

2 ページをご覧ください。

2 ページ 24 行目に「地球の環境収容力（プラネタリー・バウンダリー）」とございます。これにつきましては現行計画でも、人間活動は地球環境収容力を超えないようにしないといけないという文脈で記載しておりましたが、これに加えて、最近言われております、

29 行目「ソーシャルバウンダリー」とか、30 行目後段「ドーナツ内での生活」というのを追記しました。その要点といたしましては、人間活動では、「地球の環境収容力（プラネタリー・バウンダリー）」を守ると同時に、水や食料、住居などの社会的基礎、「ソーシャルバウンダリー」も必要で、2つのバウンダリーの輪っかの間、いわゆるドーナツ内での豊かな生活を送るためには、環境、経済、社会の 3 側面の統合的向上を進めることが重要だというような内容を、3 ページにかけまして記載してございます。

そういった内容を受けまして、3 ページ最後の段落ですが、本市環境基本計画につきましても、パートナーシップによる 3 側面の向上、SDGs 達成をめざして、2030 年、あるいはその先もめざして、改定するという形で結んでございます。

次は 4 ページから 5 ページでございます。SDGs に関して分かりやすくするために、関連するトピックを記載してございますが、前回の審議会でご意見 A「大阪ならではの内容」ということもいただきましたので、そういったところを踏まえてございます。まず 4 ページでは、大阪市が SDGs 未来都市モデル事業に選定されたこと、あるいはその取組みで、市民と連携いたしまして、ペットボトルの資源循環を進めておりますので、市民の方に、関連づけてイメージしてもらいやすいように記載してございます。また 5 ページでは、万博でも SDGs 達成をめざしてございますので、いのち会議など、具体的なものを記載してございます。

6 ページは、本市環境基本計画の位置付けでございます。環境基本計画は、様々な分野別の計画、あるいは環境分野の個別計画と整合をとりながら、SDGs 達成をめざすという内容でございます。レイアウト等を変更したのみで、内容に変更はございません。

7 ページから 10 ページは、計画の基本的な視点とかコンセプトでありまして、現行計画から維持・継承いたします計画の根幹部分でありますので、若干の表現の修正だけでございまして、内容に変更はありません。きっちり引き継いで参りたいと考えております。

次に、11 ページからは「第 2 章 基本的な考え方」として、次の 12 ページから 14 ページで、現行計画策定して以降の、国内外の動向を追記しております。

まず、12 ページの後段に「① 国際的な動向」とございまして、13 ページの 13 行目以降ですが、2050 年カーボンニュートラルに向けた脱炭素化の動きがございました、また、17 行目、生物多様性については、「昆明・モンテリオール生物多様性枠組み」の採択などがありました。また、27 行目以降ですが、海洋プラスチックごみにつきましては、2019 年 6 月の G20 大阪サミットで、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が共有され、現在は条約策定に向けた動きがあるという内容を書いてございます。

次の、「② 国内の動向」では、こうした国際的動向に対応した動きがございました。14 ページ 8 行目以降にプラスチック資源循環促進法の施行ですとか、13 行目、2020 年 10 月のカーボンニュートラル宣言と、それ以降の脱炭素化に向けた動き、法律改正や、国の温室効果ガス削減目標の引き上げなどがありました。18 行目、生物多様性につきましては、国家戦略の策定を記載してございます。また、最後の段落ですけれども、今年度に入ってから、国において、新たな環境基本計画等の策定がされたという動きがありました。

次の 15 ページから 23 ページでは、大阪市の環境の現状について記載してございます。

大阪市では 6 行目、低炭素社会、今は脱炭素社会と言っておりますけれども、脱炭素社会の構築に向けた取組、循環型社会、快適な都市環境、これらを環境施策の 3 本柱として取り組んでおりまして、その順で示しております。

まず 15 ページの下、脱炭素化の取組みに係る現状です。市域の温室効果ガス排出量は、26 行目にありますように、基準年度の 2013 年度と比べまして、22.3%の減となっております。

次 16 ページ上図は、循環型社会の取組みであります。市のごみ処理量はピーク時よりも 6 割減って、今現在 87 万トンということになっております。

次は快適な都市環境に係る現状で、17 ページは、市内の緑や公園などの状況を示しております。18 ページでは、平均気温が年々上がっていることのほか、熱中症警戒アラートや熱中症による救急搬送が多く発生しているといった状況を示してございます。

次の 19 ページは、大気質、水質の状況でございまして、いずれも近年は概ね改善の傾向にあるといった状況でございまして。

20 ページからは社会、経済の関係で、動向でございまして。まず人口推移の見通しといたしましては、将来的には大阪市でも、人口減少、高齢化が進展するということが見込まれております。また、23 ページでございまして、下の図では、一時減ってございましたインバウンドが、コロナ後再び増加しているといった状況を示してございます。

こうした現状を踏まえつつ、24 ページ黄色の枠に示すように、現行計画に引き続き、SDGs 達成に貢献していくため、次の 25 ページで、3 本柱ごとに環境基本計画上の目標を定めております。

なお、先ほど申し上げましたように、環境基本計画は、個別計画と整合を取り、一体的に取り組む必要がありますので、目標も個別計画と合わせた内容となっております。

1つ目、温室効果ガス排出量に関しては、柱の名前を「低炭素社会の構築」から「脱炭素社会の構築」に改めた上で、カーボンニュートラル宣言以降、国で目標値を引き上げ、市の温対計画でも目標値を引き上げましたので、環境基本計画でも、30%削減から50%削減に目標を引き上げて、めざしていきたいと考えております。

それ以外の目標につきましては変更ありませんが、一部は2025年度までの目標を記載しています。循環型社会の目標と、快適な都市環境の目標のうち、緑被率、熱帯夜日数の目標でございます。

これは、環境基本計画が2030年度までであるのに対し、これらに関係する個別計画が2025年までとなっているためございまして、個別計画が改定されましたら、環境基本計画においてもそれ以降は、新しい方の目標をめざしていきたいと考えております。その旨、一番下の最下段に注釈を入れてございます。

28ページをご覧ください。こちらでは、先ほどの目標を達成し、SDGs達成に向けていくために、3本柱ごとに具体的な施策について記載しています。内容は、先ほど資料1-1の、5ページから8ページにお示しした、前回審議会のAからIのご意見も踏まえたものとしておりますので、それにも触れながら説明させていただきたいと思っております。

まず29ページ、脱炭素社会の構築に係る取組みでございます。下の黒丸、再生可能エネルギーの活用につきましては、前回審議会のGのご意見に関連しますが、引き続き、太陽光発電の設置拡大や、スマートエネルギーセンターでの情報提供、相談業務などに取り組んでまいります。

また30ページ、こちら中段、帯水層蓄熱につきましては、うめきた2期や万博会場にも空調でも活用されますが、引き続き活用を図ってまいります。また、水素エネルギーについても同様でございます。これらについては、イメージ図や写真を更新しています。

31ページ、省エネルギーの推進では、普及啓発といたしまして、2つ目の黒丸、ライフスタイルの変革のために、国で進めるデコ活の推進のほか、市で作成したリーフレット「脱炭素アクション」による啓発をしたり、32ページ「移動の脱炭素化」としまして、自転車や次世代自動車の活用促進を図ってまいりたいと考えております。これらはご意見B「市の施策の強化」、C「関係所属間の連携」と関係するものでございます。

33ページ「脱炭素型のまちづくり」としましては、モデルエリアとしまして12行目、「うめきた」、「中之島」、湾岸部の「夢洲・咲洲」、「御堂筋」を位置付けております。「うめきた」では22行目、2期開発で帯水層蓄熱を活用した冷暖房が導入される旨を追記しました。

34ページ、「夢洲・咲洲」におきましては、大阪港などで、港の脱炭素化、カーボンニュートラルポートの形成に、港湾局とともに取り組んで参ります。ご意見B「市の施策の強化」や、C「関係所属との連携」と関係するものでございます。また、御堂筋エリアにおきましては、国の認定を受けた脱炭素先行地域づくりに、沿道の事業者などとともに官民一体で取り組んでまいります。これにつきましては、37ページに詳しく記載しておりますので、また後ほど、ご説明いたします。

36ページ、気候変動への適応の取組みで、こちらでは、一番下の黒丸、グリーンインフラの推進などに関係所属と連携しながら取組みを進めてまいります。

37ページでございます。先ほど申し上げました、脱炭素先行地域の取組みの内容でございま

す。御堂筋沿道の事業者と一丸となりまして、大都市中心市街地での脱炭素化を進めつつ、万博や国際会議などでも新たな都市モデルとして発信し、大阪のブランド力向上をさせるとともに、市域全体に広げ、2050年の脱炭素社会をめざしていきたくて考えております。

38 ページをご覧ください。循環型社会の形成にかかる取組みです。ごみ減量におきましては、「2Rを優先した取組み」を引き続き進め、特に39ページ、生ごみの減量では、食品ロス削減が重要ですので、明記しました。特にインバウンド対策では11行目、4か国語で表記した食べ残し削減のメッセージカードを閑空などで配布し、啓発を進めてまいります。

また中段「分別、リサイクル」では、家庭から出されるプラスチックごみにつきまして、一番下、これまで普通ごみとして収集しておりました製品プラスチックを、容器包装プラスチックと一緒に収集しましてリサイクルに回すなど、プラスチックの資源循環をより一層進めていきます。これらはご意見B「市の施策の強化」と関連するものでございます。

42ページ、上段では、サーキュラーエコノミーについて記載し、下段では、近年の重要な課題である、海洋プラスチックごみ問題と、それに係る国内外の動きについて記載しております。

43ページでは、その中のプラスチックの取組みの1つで、本市が力を入れて取り組んでいる、地域と連携したペットボトルの資源循環、ボトル to ボトルの取組みを記載しております。

次に、44ページ以降は、快適な都市環境にかかる取組みでございます。

45ページ「生物多様性の保全」の取組みといたしまして、市内の自然、公園の保全のほか、10行目、なにわの伝統野菜を用いた食育などにも取り組んでまいります。また、「みどりの保全と緑化の推進」に関しては、緑が生物多様性や、緑陰などによる暑熱環境の改善に資するものであるといったことを改めて認識いたしまして、都市公園の整備のほか、開発等に合わせた民有地緑化に取り組めます。なお、本市緑化事業等に係る「みどりの基本計画」は来年度の改定に向けて審議会で議論中でありまして、その内容と整合をとっております。

46ページ、13行目では、まちの美化の推進という項目を新たに追加し、これまで取り組んできた道路清掃などに加えまして、来年1月から市内全域での路上喫煙を禁止し、快適な都市環境づくりに取り組んでまいります。17行目、暑熱環境対策では、先ほども熱中症アラートや救急搬送が増えているという状況を説明しましたが、そうしたことから、下の黒丸、適応策が重要となっております。35行目、気候変動適応法に基づく、クーリングシェルターの指定などに取り組んでまいります。こちらはご意見B「市の施策の強化」、ご意見C「関係所属間の連携」と関係するものでございます。

47ページ「都市環境の保全・改善」としましては、5行目「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の実現に向けて、海洋プラスチックごみ対策に取り組めます。また、一番下、PFOS、PFOAの調査を進めてまいります。

49ページでございます。前回審議会では、緑や生物多様性の保全には民間の取組みを後押しすることが有効であるとのご意見をいただきました。ご意見Hです。自然共生サイトのほか、大阪市内で持っている市民、事業者、団体等との様々なネットワーク、チャンネルを駆使し、取組みを進めてまいります。また、挙げております写真は、大阪市内で自然共生サイトに認定されている2件の緑化の写真と、その下は、民間団体による「レモンの樹による緑の回廊づくり」の写真でございまして、いずれも、緑や生物多様性に係る民間の取組み事例として掲載してまいります。

50 ページでございます。上段で、地域循環共生圏について記載しております。下段では、前回審議会での地産地消や食育についてのご意見を踏まえ、地域への関心、感謝の気持ちの醸成など、地産地消や食育の意義を記載しております。

51 ページ「地球環境への貢献」でございます。地球規模の環境問題の課題解決のために、引き続き、国際連携・協力を進めますとともに、52 ページの下の黒丸 2 つ、市民、事業者等の啓発、行動変容の取組みを進めてまいります。そうしたことから、53 ページですが、上段では、先ほど申し上げたデコ活について記載しています。また、下段の「環境側面からの企業価値」では、前回審議会のご意見 D にかかるものでございまして、内容としましては、環境問題等サステナビリティに関わる課題に取り組む企業の姿勢が、消費者や投資家から見られるような時代になってきており、そうした課題に真摯に取り組む企業の姿勢が評価されること、あるいはそれが企業の行動変容を促し、企業価値などにも繋がっていくといったことなどを記載しております。そうしたところで 30 行目において、大阪市としましても、市民の方が、環境に配慮した製品やサービスを選択するよう、普及啓発を行ってまいりたいと考えています。今後の施策においても、きっちり留意してまいります。

54 ページ以降「すべての主体の参加と協働」というところですが、環境問題には、パートナーシップを持って取り組む必要があることから、引き続き、啓発等に取り組む旨を記載しています。写真等の更新のほか、文章を整理しておりますが、内容に変更はございません。

57 ページは前回審議会で、万博の取組みの記載につきまして、ご意見いただきました。A のご意見でございます。万博をきっかけに、環境の取組みや技術、人々の意識がぜひ高まって欲しいと思いますので、万博における環境面の取組みを具体的に挙げております。7 行目からは博覧会協会が主体となる取組み、20 行目からは、大阪市が主体となる取組みを挙げております。例えば、博覧会協会の取組みとしましては、脱炭素に係るものとして、ペロブスカイトの設置、空調システムでの帯水層蓄熱設備の導入など、資源循環では、リユース食器の導入や食品ロス削減に取り組まれるというところがございます。また、スマホアプリにより「EXPO グリーンチャレンジ」によりまして、人々の環境意識を向上させ、環境配慮行動を促す取組みがなされております。大阪市の取組みとしては、万博会場へのアクセスを担うバスの脱炭素化を促進するため、EV バスや FC バスを導入するバス事業者に対して、経費を補助し、脱炭素化の取組みを推進します。そうしたことから、最下段ですが、持続可能な社会の実現のためには、万博をきっかけに行われるこうした環境面の取組み、技術だけでなく、人々の意識や行動も、一過性のものに終わらせることなく、未来に引き継いでいくことが重要であると結んでおります。

58 ページ「第 4 章」では、施策展開にあたっての戦略ごとに、先ほど説明した施策を並べております。計画の根幹部分ですので大きな変更ありません。説明は省略いたします。

なお、59 ページ 13 行目、前回審議会で、「環境負荷は昼間人口によるところが大きい」とのご意見いただきまして、重要な指摘ですので追記し、今後の施策展開においてきっちり留意していきたいと考えております。

また、66 ページ冒頭ですけれども、国の環境基本計画におきまして、脱炭素、資源循環、都市環境といった環境面の取組みにおいて、それぞれの相乗効果、波及効果を意識して取組みを進めるべしというふうにされておきまして、本市で取組みを進めるに当たりまして重要な視

点ですので、追記しております。

67 ページ以降「計画の進行管理」ですが、時点修正をしておりますが、内容はこれまでと同じでございます。

あと最後 1 点、ご報告でございます。資料にはありませんが、環境局では、9 日土曜日に、「エコ縁日」という環境イベントを鶴見緑地で開催いたしました。その中で、「環境サミット」というプログラムを実施いたしまして、そこで公募で集まっていただきました中学生 15 名に、環境への思いなどを話し合ってもらいました。未来を担う子どもたちの声を聴くことは非常に有意義だと考えておまして、最終、計画策定の際には、「環境サミット」の写真や、そこで出た意見、アイデアなども掲載したいと考えております。

説明につきましては以上でございます。どうぞよろしく願いいたします。

〈下田会長〉

はい、ご丁寧に説明いただきましてありがとうございます。

今の事務局からの説明に関しまして、ご質問ご意見等ありましたらお願いをいたします。

先ほど申し上げましたように、この内容について、審議するのはこの審議会で最後でございますので、皆様ご忌憚のないご意見をお願いいたします。

なお、Web にて、ご参加の委員におかれましても会場と同様ご発言いただきますときには、挙手ボタンを押すか、画面上で手を挙げていただきお知らせください。

それでは、どなたからでも結構でございますのでご意見お願いいたします。いかがでしょうか。

〈今西委員〉

今西です。よろしいでしょうか。

最後の方に相乗効果の話があって、少し思い出したんですけども、ちょっと重要なキーワードが抜けているなと思ひまして、ネイチャーベースドソリューション、NbS という、考え方が最近かなり普及し始めていて、自然を活用した社会課題の解決というふうに、訳されることが多いですけども、自然の様々な機能を生かしながら、多様な社会課題を解決するというような考え方で、これからのキーワードになっていくと思うので、どこかにコラムとか本文でもいいと思ひますけれども、ネイチャーベースドソリューション、NbS という考え方をちょっと市民に紹介していただければなというふうに思ひました。

以上です。

〈下田会長〉

ありがとうございました。事務局からよろしいでしょうか。

〈事務局〉

企画課長の川戸です。ご意見ありがとうございます。

自然を活用した社会課題の解決、NbS ということで、似た感じで、グリーンインフラという内容は盛り込んでございますけれども、それよりもっと広い、新しい概念ということでござい

まして、いろんな社会課題の解決に向けた概念ということでございます。国の環境基本計画とか、白書などにも記載があったと思いますので、そういったところを参考にしながら、コラム的な形で追記したいとおもいます。よろしく願いいたします。

〈今西委員〉

はい。ありがとうございます。

〈下田会長〉

それでは田中委員お願いします。

〈田中委員〉

どうも丁寧なご対応をありがとうございます。

1-2の資料の57ページのところをお願いします。

第3章の基本的な施策の体系第5節の方に入ると思うんですが、こちらの方のトピックになるんでしょうかね、そちらの方で、まず2点ございます。

1点目ですけども、万博の試みとして、開催前のお話はよく分かるのですが、閉会後に、例えば大屋根リングの話が出てきていまして、あの木でできたもので、利活用をどうするかというお話で、2024年3月13日には、募集を募っていらっしゃいます。

利活用、リサイクルを進めるということで、大阪府以外の自治体の方も、再開発等で利活用したいというお話も若干出てきたりしておりまして、このところ木材の利活用のことも含めて、少し話題提供っていうのはされるのかどうかっていうご質問です。

もう1点ですけど、その下に書いてある大阪市の取組みで、EVバスの話ですが、11月10日に自動運転も一部実施されているようで、森ノ宮京橋周遊ルートがですね、実際に実験的にやられているということなんですけども、この自動運転というのはですね、サステナブルのSDGs9の産業と技術革新の基盤を作ろうという中にも含まれておりますので、若干ちょっと、もしかしたらどこかに記載があるのかもしれないんですけども、そちらの方も記載されるのかどうかということについてちょっとお伺いしたいなと思います。

以上です。どうもありがとうございます。

〈下田会長〉

ありがとうございます。いかがでしょうか。

〈事務局〉

企画課長の川戸です。

リングの利活用というところで、万博を実施されますのが博覧会協会というところでございまして、博覧会協会の方で、そういった利活用、リサイクル、リユースについていろいろ募集しているということは聞いてはございます。

今後、おそらく、いろんな募集を含め、いろいろ検討されていくということを聞いてございまして、そういったところの動きを見ていきたいと思っております。ただ、万博でもSDGsを掲げて

取組みを進めている、もともと SDGs を掲げた万博ですので、そういったところがきっちり果たされるような取組みになるよう、見ていきたいと思っております。

〈事務局〉

環境政策課長の山下でございます。

バスの関係でございますが、まず 57 ページに記載しております EV バスの関係につきましては、補助事業を大阪府市で共同で補助している事業でございます。それについてのご紹介となっております。一方で、自動運転につきましては、大阪市が直接補助は行ってないんですけれども国の補助を受けて、大阪メトロ様の方で、実施している事業でございます。

ご指摘いただきましたので、その点も踏まえて記載するにあたって工夫が必要かと思うんですけれども、その辺も検討して参りたいと思います。

よろしく願いいたします。

〈田中委員〉

ありがとうございます。

〈下田会長〉

はい、続きまして細井委員、お願いいたします。

〈細井委員〉

お願いいたします。細井でございます。

45 ページの、緑の保全、緑化の推進に関してお尋ねしたい。17 ページに、大阪市緑の基本計画における目標ということで進捗状況が、大阪の場合はかなりめざす割合よりも低いという、実際の数字が出ております。例えば、朝日新聞に、今年の 9 月に連載記事があったのですが、街路樹が、大阪市でもかなり伐採されまして、安全対策で 2 万本伐採計画ということで市民の批判というような記事があった。私自身、大阪の街を歩いておまして、大阪の街の大きな街路樹が伐採されていると感じている。その辺、この緑化に関してちょっと逆行しているのではないかと、海外ではやっぱり緑を増やしていく、あるいは、熱中症の予防に対しても街路樹が大事だというようなことが朝日新聞にも連載記事があった。その辺の基本計画に関しては、どのように建設局と一緒にされていらっしゃるのかお聞きしたいんですが。以上です。

〈事務局〉

はい。企画課長川戸です。

ご意見ありがとうございます。資料 1-2 の 17 ページをご覧くださいまして、細井委員から先ほど言っていただきましたところですが、こちら上のグラフ見ていただきますと、公園数とか公園面積のグラフでございます。こちらは確実に増えてきてございます。1 人当たりの面積となりますとちょっと最近人口が増えておりますので、横ばいという状況ですが、公園数とか、公園面積というのは確実に増えてきてございます。一方で、細井委員ご指摘のありましたとおり、下の表「成果指標」というところでございます。市民の実感としては、それほど上

がっていないというような状況があるというところでございます。

現在、大阪市では、緑化事業につきましては、緑の基本計画というのを策定いたしまして取組みを進めておりますけれども、こちらの計画が来年度の改定でございまして、今ちょうど建設局で審議会を開催し、改定に向けて審議をされているというところでございます。

そこでも、こういった市民の満足度を上げるところの方策もいろいろ議論されているというように聞いてございまして、緑や公園を「活かす」とか、緑や公園で人々が「つながる」というような取組みをされていくというようなことで聞いております。例えば、先日も、鶴見緑地で大規模なイベントを建設局さんもされておりましたけども、そういった公園を活用したいろいろな事業をやっていくということで聞いてございます。

あと、緑が暑さ対策、暑熱対策に資するということもございまして、そうしたところも、緑の審議会の方で議論されているということも聞いております。そうしたことから、資料 45 ページの 21 行目「暑熱環境の改善に資する」という記載も、そういった議論を踏まえた上で追記してございます。

いずれにしても、緑化事業に係る緑の基本計画を所管します建設局や関係局と連携しながら取組みを進めて参りたいと考えてございます。以上でございます。

〈下田会長〉

はい。ありがとうございました。

Web から参加いただいている方では、一通り今いらっしゃらないようですけれども、会場も含めて何かございませんか。

〈吉田委員〉

大阪公立大学の吉田といいます。

今回の資料等について、万博等の話もあったんですけど、実は具体的な都市の比較の中で、環境のパフォーマンスに関する大阪市の評価っていうのが、あまり高くない側面があって、その多くは、実はいろいろ活動されているのに関わらず、あまり情報を積極的に海外に発信していないっていう状況があって、いろんなことをされているのが、私自身はすごい素晴らしいことだとは思ってるんですけど、それをアピールできてないっていうのが、少しもったいないなと思ってる場所なので、ぜひ今回の万博に限ってかもわからないんですけど、英語版の資料を作られて、ぜひ公開していただきたいというのがお願いでございます。

以上です。

〈事務局〉

企画課長の川戸です。先生、ご意見ありがとうございます。

大阪のアピールができてないというところでございまして、このように審議会でご議論いただいて、いい計画を作って、いい取組みをしているという自負はございますけども、それがアピールできてないばかりに知られていないというのは非常に残念でもったいないというところは先生おっしゃるとおりでございます。それは大阪市のブランドというか、魅力発信という面でももったいないですし、国際貢献というか、環境面での大阪の国際貢献という点でも、

もったいないのかなという気がいたします。

個々の取組みにおきましては、UNEP との連携とか、アジア諸都市との連携、協力ということもやってございますけれども、そういったこの計画の英語版というところにつきましては、確かに万博のタイミングというのもございますので、単純に予算等の問題もございまして、一度局内で検討したいと思います。

ありがとうございます。

〈下田会長〉

よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。はいどうぞ。

〈日裏委員〉

公募委員の日裏でございます。

先ほどの先生のご発言と重なるところが大きいのですけれども、素晴らしい計画を策定していただいているのですが、市民の皆様への周知といったところでは、まだまだできることが多いかと思っております。

また、私も含めまして「だから今どうなってるの」というせつちなところがありまして、目標値や現状の数値が、もっと分かりやすくなっていると非常にいいのではないかと思いつつ見させていただきました。

ちょっとだけお願いしたいところといたしまして、25 ページの目標というページがございます。特に光化学オキシダントなどの、今目標に適合していないところへの対応という、箇所について、何をどうしようとしているのかが少し分かりにくいように思いましたので、少し分かりやすく書いていただくと非常にありがたいと思います。

以上です。

〈下田会長〉

ありがとうございます。お願いします。

〈事務局〉

企画課長の川戸です。ご意見ありがとうございます。

市民の方に分かりやすくというご意見でございます。環境基本計画は冒頭申し上げましたとおり環境施策のマスタープランでありまして、基本的には理念を書く計画でございますので、やっぱどうしても、ちょっととっつきにくいような内容も入ってきてしまうところがございます。特に前半はそうかなというふうに考えてございます。

だからといって、分かりにくくてもいんだということも思ってなくて、なので工夫をいたしまして、なるべく役所言葉じゃなくって、平易な言葉での表記を心がけたりとか、あと写真やグラフを盛り込みまして、見やすいビジュアルにしたとか、そういったところはいろいろ工夫してございます。

あと、本日お示ししているのは本編だけでございますけれども、分かりやすくするため、策定するときには、市の責任編集で「用語集」をつけて、なるべく市民の方に伝わりやすくしたいな

というふうに思っております。また、概要版も作りまして、市民の方にお届けしたいなと思っております。

25 ページのそれぞれの目標に対して、具体的にどういうふうに取り組むかというところは、それぞれで個別の計画、温暖化対策の計画、ごみ処理の計画、生物多様性の計画などいろいろございますので、そういったところでも、なるべく分かりやすくというところを心がけていきたいと思っております。いずれにしましても、環境はみんなで行き先、市民・事業者と一緒に取り組むんだ、と言うからには、やっぱり市民の方にきっちり伝わらないといけませんので、今後も含めまして、個別の計画策定や、具体施策の実施の際も、市民目線での分かりやすさという点も、心がけていきたいというふうに思っております。

〈下田会長〉

はい。よろしいでしょうか。

細井委員から手が挙がっていますが、いかがでしょうか。

〈細井委員〉

はい。ありがとうございます。

46 ページのまちの美化、路上喫煙対策に関して、私ども医師会としては、禁煙が大阪市全体になるということをお聞きして、非常に喜んでいる次第でございます。実際に我々の病院の近くの都島区の公園の、一角にスモークボックスを作っていただいています。私自身、非常に驚いたのですが、ぜひそれは市民にも、禁煙とともに喫煙ボックスもあるんだということをごアピールしていただき、禁止だけをしているのではない、スモークボックスもあるんだというようなこともぜひアピールしていただき、全面的に禁煙の機運を盛り上げていただくとうれしいと思っております。以上です。

〈事務局〉

ありがとうございます。企画課長の川戸です。

1月から、市内全域で禁煙にしますけれども、喫煙者と非喫煙者の共存というか、合わせて、そういう喫煙所というのを設置いたします。それは公設、行政で作るものもあれば、民間にご協力いただいて作るものもございまして、そういった位置につきましてはホームページや、いろんな媒体を使って、発信をしていきたいと考えております。ありがとうございます。

〈細井委員〉

ぜひお願いいたします。

〈下田会長〉

はい。ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

〈野上委員〉

ありがとうございます。大阪市議員の野上と申します。

様々ご意見を盛り込んでいただいて、私今日初めての参加なんですけれども、大阪市では新たに2025年の万博が始まったり、路上喫煙禁止が全面で適用されたりということでそういった意見も盛り込んでいただいて、非常にすばらしいなと感じていました。

インバウンドの増加などもありまして、本当に繁華街や繁華街を中心とした町でゴミがたくさん捨てられていたりとか、すごく気になっていることと、あと昼間人口の環境への負荷が大きいというご意見が反映されておりまして、これも私すごく感じる場所があって、非常にすばらしいご意見だなと思いながら見させていただいたんですけど、このあたりで何か具体的な、もし対策などあればお聞かせいただきたいことと、あと先ほどちょっと街路樹の伐採でご意見出ておりましたので、少しだけ1点お伝えさせていただきたいんですけど、この間ちょっと安全対策で街路樹の、木を、危ない木を切らせていただくところで報道などで、非常に市民の皆様にはご心配をおかけしているところもあるかと存じております。大阪市ではこれまでちょっと狭い道でも、緑を増やしていこうというところで、ちょっと木を敷き詰めて、植えてしまっていたりとか、道にそぐわない大きな木が育つんですけどもそういった木を植えてしまっていた経過とかもありまして、台風などでもたくさん木が倒れてしまっていたりとかもあって、危ない木に関しては安全対策の中でしっかりと間隔をきちんと取ることだったりとか、その道に何て言うんですかね、道にそぐう木というんですかね、あまり大きな木を植えないようにするとか、人々の安全のために対策を行っているところがありまして、どうしても切ってしまう木があったりとか、あるんですけどもその辺ご理解いただきたいなというところで、ただ剪定に関してはこれまでちょっと予算の関係で、何て言うんですかね、大幅にカットしてしまうという部分は確かにありましたのでそういった部分は、今後丁寧に剪定を行っていくという方針も出ておりますので、その点ご理解いただければと思います。

すいません、以上です。

〈下田会長〉

はい。ありがとうございます。

前半部分についてご意見いかがでしょうか。

〈事務局〉

企画課長の川戸です。ご意見ありがとうございます。

昼間人口のご意見をいただきまして、今後の施策におきましてはきっちり見ていきたいということで、基本計画の方に書かせていただきました。具体的な話になりますと、実際に取り組む施策の内容とか目的もございます。また、場所とか、時間帯もございます。具体的にというのはちょっと持ち合わせておりませんが、具体のそれぞれの施策、取組みの中で、留意しながら取り組んでいきたいというところでございます。

〈下田会長〉

よろしいでしょう。はい、ありがとうございます。

貫上委員お願いします。

〈貫上委員〉

いろんな面からコメントがあって、計画の中に組んでいただきまして、それが非常にいいなと思っているのですが、1点、いま野上委員がおっしゃったですね、昼間人口に関する話ということで、今の対策の話も少し書いていただいたと思いますけど、実際にこの計画のですね、第2章のところ、いわゆる現状把握っていうところには、昼間人口どうこうって話が書いてないんですよ。

なぜこんなこと言っているかといいますと、もうコロナの対策が終わって、前の状況に戻りつつありますけど、一時期、やはりかなりリモートワークがかなり進んだというふうに思っています。まだ、リモートワークをですね、進めるような動きもあるわけで、昼間人口のですね、上昇を抑えるという意味では、例えばリモートワークをもう少し進める、DX絡みも含めてですね、ちょっと進行するって話も1つなんじゃないかなと思ひまして、このところ、具体的に、現状ってどうなのかと、どれくらい戻っているのか、あるいはコロナの時はどれくらい昼間人口が少なかったのかっていうデータがあったら、是非ともお示ししていただきたいなという点と、その辺ところ対策の話でですね、実際にDXも絡めたようなリモートワークという話の効果ってというのはどれくらいあるのかなというのが、これ、ある意味で個人的な興味もあるんですけど、その点、もし、あるようであれば、加筆いただいたらどうなのかなと思います。

はい。以上です。

〈事務局〉

企画課長の川戸です。現在データを持ち合わせているかというのと、そうではございません。市の中でも、昼間人口のデータというのはなかなか見当たらず、その辺は探っていこうかなと思っているんですけども、いずれにしろ、環境負荷というのは人間活動によるものだからやっぱりそこは注意せなあかんのでということで、まずは基本計画に書かしていただいて、そのあと先生がおっしゃるようなリモートワークとかですねそういった影響とかも見て、データなども探ってはいきたいと思うんですけども、今のところすみません、持ち合わせはございません。

〈貫上委員〉

基本的に昼間人口の割合みたいな話は、基礎データとしてお持ちじゃないんですかね。

配布してくださいって言うんじゃないんですけどね、状況はね、コロナっていう大きなですね、コロナ対策っていうのがあったから、ここ数年どうなってるのかな、どのくらい戻っているのかなってのは、個人的には知りたいなと思っています。

〈事務局〉

一度、探ってみます。ありがとうございました。

〈下田会長〉

今の話で、やはりデジタル化でですね、やっぱりテレワークとか、それからEコマースみたいなものって、どれくらい活動が変わっていくのかって、環境上、非常に大事なんで、多分公

公共交通の利用者数とか、交通量とかですねそういうところでも押さえられると思いますので、またちょっとそれは、見ていただいて、今後お願いいたします。

藤田委員、お願いします。

〈藤田委員〉

ご検討いただきたい点について、45 ページになりますが、今回、生物多様性の保全のところでなにわの伝統野菜などを用いた食育について追記されている箇所ですが、せっかく追記されているので、このなにわの伝統野菜について脚注をつけていただいたり、あるいはここでは海外の認証制度のマークもついていますので、なにわの伝統野菜のマークを掲載されたりすることをお願いします。地産地消を進めるという意味でも、そういったマークの掲載ですとか、天王寺かぶらとか、堺の鷹の爪とか、24 品目ぐらいでしょうか、なにわの伝統野菜がありますので、せっかくの機会ですし、より詳細な説明を追記していただくこともご検討いただければと思います。

以上です。

〈下田会長〉

はい。ありがとうございます。事務局、お願いします。

〈事務局〉

ありがとうございます。

なにわの伝統野菜につきましては、先生にご紹介いただいた 45 ページと、それから 50 ページの下の段にも書いてございます。伝統野菜のチラシも紹介していますが、ちょっと見にくいところもありますのでご指摘いただいたように、脚注をつけて用語集に入れるか、あるいはもうちょっと、この 50 ページで記載を工夫するとか、具体的な表記をしたいと思います。ありがとうございます。

〈下田会長〉

よろしいでしょうか。では他にいかがでしょうか。はい、岩崎委員、お願いします。

〈岩崎委員〉

公募委員の岩崎です。

先ほどのまち美化の 46 ページなんですけど、路上喫煙、天王寺とかでも禁止になって、表の通りってというのは随分ごみが減ったんですけど、どうしてもコインパーキングの裏にこそそこそ隠れて、喫煙されてる方が結構多くて、びっくりすることもあるって、駐車場、敷地内なんで、行政さんからあんまり言えないかもしれないんですけど、その敷地内の、路上喫煙というか、コインパーキングの裏の吸い殻が結構溜まっているのが見えるので、民間企業の方に少し、声掛けしていただければなと思います。

〈事務局〉

企画課長の川戸です。ご意見ありがとうございます。

私有地内の喫煙につきましては、また担当課にお伝えさせてもらいたいと思います。なお、市内全域を禁止するということだけではあきませんので、巡回員もこの10月から増員して体制を強化しており、そういったところで、取組みをきっちり担保できるように進めていきたいと考えております。ありがとうございます。

〈下田会長〉

他にいかがでしょうか。

Webからも、どなたかいらっしゃいませんか。2回目でも結構でございます。

細井委員、お願いします。

〈細井委員〉

細井でございます。何度もすみません。

39 ページのですね、インバウンド向けの食べ残し削減というところで、非常にいい取組みだと思いますが、具体的には、インバウンドの方に、その食べ残しを持って帰ってもらうような、何かボックスを渡すとかいうような取組みとかを具体的にされる予定でしょうか。単にこの、メッセージカードだけでは、食べ残し削減にはなかなか難しいかなと、ドギーボックスを渡すようお考えはあるのでしょうか。

お願いします。

〈下田会長〉

はい、事務局からお願いします。

〈事務局〉

企画課長の川戸です。

インバウンド向けに、まずはこういった多言語の食べ残し削減カードを配布しております。ドギーバッグも、一方で別に取組みをしてはいますが、インバウンド向けのドギーバッグというところは、担当課へお伝えしたいと思います。

〈下田会長〉

はい。ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。はい。雪本委員、お願いします。

〈雪本委員〉

失礼します。雪本でございます。

46 ページのところにクーリングシェルターを指定しますというようなことがあるんですけど、ちょっと勉強不足でよくわかってないんですけど、気候変動適合法に基づくクーリングシェルターという、何ヶ所ぐらいとか、何かそういう、どんなエリアでどれぐらいの割合とか、

そういうのはあるのでしょうか。

ちょっとなんか、これだけでは、どういうふうに、取り組まれるか、ちょっとなかなかわかりにくいかなと感じております。

よろしく申し上げます。

〈事務局〉

環境政策課長の山下でございます。

このグリーンセンターでございますが気候変動適応法が改正されまして、今年度から各市町村で、クーリングセンターが指定することができるという、それが施行されておりまして、今年度から開始した事業でございます。

実態的には今現在の 238 ヶ所の施設を指定いたしておりまして、市有施設がですね 170 施設で、民間施設は 68 施設の合計 238 施設というところでございます。今後もどんどん営業といいますか、ご協力いただけるところも拡大していこうということで、取組を進めているところでございます。できるだけ身近にといいますか、住民の方にとって近くにあった方がいいだろうということで、どんどんふやしていこうという流れでやっております。現時点では 238 施設というふうな状況でございます。

〈下田会長〉

はい。他にいかがでしょうか。

ちょっと今の質問で、実際今年とか去年もそうですけどかなり夏が暑くてですね、このクーリングシェルターどれぐらい利用されてるのかとか、何かありますでしょうか。

〈事務局〉

まずクーリングシェルターなんですけれども、今回法律が改正されまして、1つはクーリングシェルターを指定することができるということで、もう1つが、今の熱中症警戒アラートというのをよく耳にするかと思うんですけれども、ワンランク上の熱中症特別警戒アラートっていうものが災害級の暑さのときに発表されるということとなっております。それが出た場合にクーリングシェルターをお借りして、お越しいただくというものでございまして、そういう意味で熱中症特別警戒アラートはまだ発表されていない状況でございますので、利用実績としては今のところない状況でございます。

〈下田会長〉

全国で救急搬送者 1 万人とかですね、やっぱり消防局の方もかなり大変な状況になっていることをうかがっておりますので、その辺の実態把握とかですね、それをどう生かしていくかってのは、これから考えていただければと思いますが、いかがでしょうか。

まだご発言いただいてない委員もいらっしゃるようですが、何かございましたら、ぜひご発言ください。

〈貫上委員〉

ちょっとお尋ねしにくいことで申し訳ないんですが、26 ページのですね、目標値の話です。今回の中間目標ですね、中間見直しですね、一番大事な点はやっぱり一番上ですね、CO₂の排出量、今 22%なんですけど 50 にするってのが一番大きな点だと思いますが、計画書としてはですね、先ほど、以前だとおっしゃったのでこれでいいのかもしれませんが、これ具体的にですね、50 に後 5 年先ですよ、5、6 年先ですよ。本当に短い中ですね、50 に上げるというのは、何をどのようにするかっていうのはまた別途考えられてるんでしょうか。

ちょっとお答えしづらい点で申し訳ないです。

〈事務局〉

環境施策課長の山下でございます。

まず 50%削減に係りましては、例えば国の施策もありつつ、市の政策もあってということでございまして、先日国の方としましては、46%削減について順調に進捗されているというようなどころでお伺いしております。

当然ながら市としてもどうしていくのかということで、市特有の課題としましては、例えば中小企業が非常に多いでございますとか、先ほどご意見いただきましたとおり市民方にとってわかりにくいということもございます。そういう部分で啓発とか、デコ活といった行動変容を促していく方策でございます。それ以外にも移動の脱炭素化で、先ほどバスの E V 化をご覧いただきましたが、進めているところでございます。

そういったところを進めつつ進捗を確認しながら、進めていきたいというふうに考えております。

すいません、お答えなっているかわかりませんが以上となります。

〈貫上委員〉

数字上の確保ってのはなかなか難しいということですか。

通常であればですね、2030 年に 50%だったら、多分それを達成するために、今何をすべきかっていう、バックキャスト的な考え方をもち込むのかなと思っていたのですが、そこまではなかなか、いろんな主体がありますから、難しいということですか。あえてお答えしにくいこと聞いております。

〈事務局〉

本計画につきましてバックキャストで 50%を積み上げておりまして、内訳としましては今の基本計画にぶら下がる形で、地球温暖化対策実行計画の区域施策編を策定しておりまして、その中で、今ご指摘いただきました 50%をどう削減していくのかということ、今計画を立てて実施しているところでございます。それぞれの項目ごとに、どれぐらいの進捗なのかを見ながら、進んでるところは、順調というふうになると思うんですけども、進んでないところについては、じゃあ次どう手打っていくのかを考えていくところかなというふうに、思っております。

〈貫上委員〉

下位の計画の方で明示されたり、検討されることですね。

はい。了解しました。

〈下田会長〉

少しちょっと補足させていただくと、今日本全体ではですね 46%に対していわゆるオントラックという言い方をしてますけれども、これは実はエネルギー多消費型の産業が海外に生産を移転しているというところがあって、もともとの計画からすると、再生可能エネルギーと原子炉がちょっと遅れていると。

それがバランスしてオントラックという状態なんで、大阪市のようですね、民生部門、建物、家庭それから中小企業、それから運輸あたりが中心になるところだとちょっと厳しいという感じももっております。

やはりそういう数字を出しながらですね、常には最大限努力していただくということで、脱炭素先行地域のようなですね、先進的な事業に取り組んでおられますので、特にやはり中小企業等はこれからサプライチェーンの問題等があって、やはり産業活動を進めていく上でも大事なポイントになって参りますので、その辺はぜひ、よろしくお願ひしたいというふうに思っております。

何でも結構でございます。まだ、もう少し時間ございますので、2回目、3回目でも結構でございますし、まだご発言いただいてない委員の方でも結構でございますので、ぜひご発言いただきたいと思いますがいかがでしょうか。

ちょっとなければ考えていただいている間に私の方からちょっと 2 点ほど申し上げたいと思いますが、初めの方で、今西委員からもお話があったんですけども、66 ページの相乗効果っていうところで、私は SDGs を掲げて環境基本計画をやるっていうのは、その 1 つ 1 つの環境項目をこの 17 のカテゴリーに振り分けるということではなくて、やはりこの 17 のゴールがですね、できるだけ全体的にうまくいくようにこのシナジーのある政策をうっていき、この中のいくつかの項目が同時に良くなっていくようなですね、相乗効果のある施策を打っていくということだというふうに理解しております。

そういう意味で、先ほど今西委員からお話があったようなその自然を大切にすることによって様々な環境の質を向上させていくというのも、1 つ相乗的なことだと思いますし、この中にあるような、福祉施策と連携した使用済み小型家電回収事業とかっていうのも、そういうことだと思います。そういう環境の質にかかわって、様々な施策の事例を、もう少しこの中で挙げていただきたいなということが 1 つでございます。

それからもう 1 つは、7 ページのこの前提となる考え方で、ここも SDGs の話を書いてあって、環境、経済、社会の同時解決というのは、いくつかあったと思いますけれども、その次の「すべてのステークホルダーの参画・連携」ということで、この改定計画案は、非常によくできていて、市の職員の方とか、環境に非常に関心の高い市民の方が読んでいただいて、環境の現状ですとか、これからの政策の動きを研究していただくと、いい資料になっていると思う一方で、大阪市民 250 万に全体に対して、やはり参画意識を持ってもらうための活動とか、途中でわかりやすい資料というご意見がございましたけれども、やはりその 250 万人あるいは

屋間人口も含めてすべての人々に、訴えていく姿勢が必要かなというふうにも思います。それからその下の「誰一人取り残さない」ということにおいても、やはり250万市民すべての人々に何を届けるのかということですね、いま国の環境基本計画でウェルビーイングっていう言い方をしておりますけれども、何を届けるのか。先ほどご意見があった、まだ達成できてない環境項目を達成していくっていうことも、250万市民の健康を守る上では非常に大事なポイントでございますし、この2点について、中に書き込むことではなくてこれからどうしていかれるかということだと思っておりますけれども、この環境基本計画を基にあと5年間、どういうふうに活動していかれるのか、ということについてまた、考えがあればお聞かせいただきたいと思います。私から以上です。

〈事務局〉

ありがとうございます。企画課長の川戸です。

まず66ページのところで、相乗効果、シナジーのところ、先生おっしゃっていただいたように、書き出せるものがないかもちょっと検討させてもらいまして、追記できるものは追記したいと考えます。ありがとうございます。

それから、7ページのところで、「すべてのステークホルダーの参画・連携」、あるいは「誰一人取り残さない」というところに、環境問題にみんなで取り組むというところが大事ですので、250万人、あるいは屋間人口も含めて、アピールしていく必要があるというのはございます。何を、というのは各施策の事業目的もございまして、そこをきっちり整合というか必要性を見ながらと思うんですけども、手段としては、いろんな媒体がございまして、広報紙とかホームページとか、イベントとかも含めましていろんな形で、なるべく多くの方にアピールしていきたいと思っております。

あと、内容ではなくてアピールの仕方にはなりますが、最近は映画とコラボした環境施策のPRのお話というのもいただくことがございまして、それは非常に広く、市民の方に伝える手段として有効と思っておりますので、そういった話がいただきましたら積極的に受けてどんどん発信していきたいと思っております。以上でございます。

〈下田会長〉

はい。ありがとうございます。はいどうぞ。永田委員。

〈永田委員〉

この様々な目標を市民の皆さんにわかりやすくというお話がございましたので、大阪市はSDGsのそれぞれの目標を、24区でうちの区はこれを主に取り組んでいくということで進めておりまして、例えば毎月発行される広報紙なんか、そのマークが書かれており、それに特化して取り組んでいるということが掲げております。区の中で、こういう取り組みをしていてここが進んできたとか、そういうSDGsに関連するところで進めている内容なんかも掲載していただくと、より市民の皆さんには分かりやすい。また、そうした各区の取り組みは、各区の広報紙では分かりやすいけど、24区が大阪市全体で一つでなったときには、分かりにくいところがあるかなと思いますので、目に見えて分かるようにしていただくのも一つかなと思っておりました。

〈下田会長〉

はい。ありがとうございました。

いかがですか。

〈事務局〉

企画課長の川戸です。ご意見ありがとうございます。

SDGs は環境に限らず、いろいろ教育の話であるとか、福祉との話であるとか、いろんなところに多岐にわたってございますので、各所属で取り組み、政策企画室で取りまとめてございます。必要に応じて、政策企画室なりと連携していきたいと思っております。

〈下田会長〉

はい。ありがとうございます。

もう少し時間ございますがいかがでしょうか。

Web の方、現地の方、何かございましたらご発言お願いします。よろしいでしょうか。

はい。それではですね、質疑応答以上とさせていただきますと思います。

幾つかですね、ご意見をちょうだいいたしましたその中にはこの原案の中にですね、書き加えていただくような、リクエストもございましたので、今後、取り扱いについて決めて参りたいと思っております。

本日の意見を受けましてですね、事務局の方で、この案の修正をお願いしたいと思っております。

その修正案につきましてはですね、答申までにですね、事務局から各委員へ説明をお願いしたいと思っております。

この他ですね修正案の取り扱いにつきましては委員長であります、会長であります私にご一任いただければと思っておりますがいかがでございましょうか。

よろしいでしょうか。

Web の方も、ご異議がありましたらお声、あるいは挙手をお願いしたいと思っておりますがよろしいでしょうか。

はい。それではお認めいただいたということにさせていただきますして、今申し上げましたように、取り計らいたいと思っております。

それでは、審議会からですね、市長宛の答申書につきまして私の方から、市の方にお渡しをしたいと思っております。

答申書につきましては後日になりますが事務局から委員の皆様へ送付するようお願いいたします。

以上で、議題の 1 番目を終了いたします。

議題 2 といたしまして、その他とございますが、委員の先生方、全体を通じまして何かご意見ご質問等ございませんでしょうか。

特にないようでございますので、これです、本日の議事を終わらせていただきます。

委員の皆様ご協力ありがとうございました。

〈堀井環境局長〉

ちょっとだけよろしいですか。

今日は先生方のいろいろご意見頂戴しまして本当にありがとうございました。

耳の痛いご意見をですね、原案的なものとしてやはりこうやって何回も叩いていただいて、中身を増やしていただく、すごく大事な事だと思っており、また、先ほど CO₂ の削減率をどうやって達成するのかという話もございましたし、市民の皆様にはちゃんと知られているのかなというご指摘もあったかと思えます。

ステークホルダーだと書いておりますけれども、結局市域全体の脱炭素化ということになりますと、行政だけじゃなくて、市民、事業者の皆様に取り組みをいただかないといけないというのが現状でございますけれども、なかなかそこがうまく伝えられていないということであれば、それちゃんと伝えていくのが我々の大事な仕事かなというふうに思っております。

また、対外的な発信、国際的な発信についてのご指摘賜ったところでございますけれども、日本の人々、大阪の人々にですね、ちゃんと取り組んでもらえるように、その我がこととして取り組んでもらえるように、やるべきこと、それから、どんな風にやってもらうのかっていうのをちゃんとお示しして、市民の方、あるいはその外から来られる方についても取り組んでいただけるように、その方々への対処もできるように、頑張っていきたいと思っておりますので、引き続きご指導をよろしくお願ひしたいと思えます。

ありがとうございました。

〈下田会長〉

高村委員からちょっと手が挙がっておりまして、すいませんご発言お願ひいたします。

〈高村委員〉

申し訳ありません。

タイミングを失したみたいで大変失礼いたしました。今回ご提案いただいている計画について、基本的に下田先生に一任ということで結構ですが、議論の中でありましたように、大阪市として、今特に脱炭素や環境対策というのは都市の格を決めるような、そうした取組みになってきていると思えます。

企業にとっても、非常に重要性、企業の競争力にとっても非常に重要になっていまして、もうすでに委員の先生がございましたけれども、進捗に対してやはりどういう、30年までに、特に都市としてやれる対策がないのかという点については、ぜひ改めて議論をいただきたいというふうに思えます。

それともう1つこちらの方が主ですけれども、30年の計画は計画として、もうすでに今、30年以降の目標と対策の議論が国でも、国際的にも始まっております。その意味では、次の、特にやはり30年を超えた35年40年といった次元の議論を進めていただく必要があるというふうに思っておりまして、次回以降ぜひその点、検討の機会をいただきけるといいかなというふうに思っております。すいません、タイミング失しまして申し訳ありませんでした失礼いたします。

〈下田会長〉

はいご意見ありがとうございます。何か事務局から。

〈事務局〉

ご意見ありがとうございます。

サステナビリティな課題に対してきっちり取り組む企業の姿勢は、先生おっしゃるとおり、企業のイメージの向上につながりますし、それが都市の場合は、都市格につながるというところはもっともだと思ひまして、本市の具体的な取組みにつきましても、引き続き、きっちり議論を進めてまいりたいと思ひます。

また、2030年以降の話ですけれども、とりあえずこの基本計画も30年を目標にしておりますが、国の方でもいろいろ温暖化対策の計画なりも、30年以降も含めた議論をされつつあるというふうに聞いてございまして、そういった動きも見ながら、市の方でも議論を進めていきたいと考えてございまして、ありがとうございます。

〈下田会長〉

はい。ありがとうございます。他の委員の皆様、よろしいでしょうか。もうご発言よろしいでしょうか。

〈司会〉

下田会長並びに委員の皆様におかれましては、長時間ご議論いただきまして誠にありがとうございました。これもちまして、本日の審議会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。